院内感染対策に関する取組事項

1. 院内感染対策に関する基本的考え方

感染防止対策は、安心・安全な医療提供の基盤となるものです。当院は、感染防止対策を病院全体として取り組み、病院に関わる全ての人々を対象として、院内感染発生の予防と発生時の速やかな対応を行うことに努めます。

2. 院内感染対策委員会及び当該病院等の組織に関する事項

感染対策に関する問題点を把握し、改善する院内感染対策活動の役割を担うため、諮問機関として院内感染対策委員会を設置しています。委員会は月1回を基本として必要時には随時開催します。さらに、実働部隊として、病院長の直轄に医療安全管理室を設置、感染制御チーム（ICT）をメンバーとして感染対策の実務を行います。また、ICTとは別に、抗菌薬適正支援チーム（AST）を組織し抗菌薬の適正使用の実務を行います。

3. 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する事項

職員の感染防止対策に対する意識・知識・技術向上を図るため、全職員対象とした研修を年2回以上行っています。

4. 感染症発生状況報告に関する事項

法令に定められた感染症届出の他、院内における耐性菌等に関する感染情報レポートを作成し、院内感染対策委員会や感染制御チーム（ICT）にて検討及び現場へのフィードバックを実施しています。

5. 院内感染発生時の対応に関する事項

感染症患者が発生または疑われる場合は、感染制御チーム（ICT）が感染対策に速やかに対応します。また必要に応じ、通常時から協力関係にある地域の他医療機関や保健所と速やかに連携し対応します。

6. 抗菌薬の適正使用に関する基本方針

当院では、抗菌薬適正支援チーム（AST）が抗菌薬の適正使用を推進するため個々の症例に対して介入を行い、治療効果の向上や耐性菌の減少に努めています。

7. 患者さんへの情報提供に関する事項

感染症の流行が見られる場合は、ポスター等の掲示物で情報提供を行います。あわせて感染防止の意義、手洗い、マスクの着用などについてご理解とご協力をお願いします。

8. 地域連携に関する事項

地域の医療施設・保健所・医師会と連携し、各施設の感染対策に関する相談を受け、問題点を定期的に検討しています。

9. その他

病院職員は、自らが院内感染源とならないため、定期健康診断を年1回以上受診し、B型肝炎、インフルエンザ等の予防接種に努め健康管理に留意します。

院内感染防止対策の推進のため「院内感染対策マニュアル」を作成し、病院職員への周知徹底を図るとともに、マニュアルの見直し、改訂を行います。